

論文内容の要旨

報告番号		氏名	中野 和俊
Dynamic changes in the levels of maternal serum squamous cell carcinoma antigen, a potential biomarker of amniotic fluid embolism, before and after delivery in relation to the mode of delivery (和訳) 母体血中における分娩形式による分娩前後の、羊水塞栓症のバイオマーカーとなりうるSCC抗原濃度の大きな変化			

論文内容の要旨

羊水塞栓症は羊水成分が母体の全身循環に流入し、妊婦の心肺虚脱を引き起こす重篤な疾患である。羊水中には扁平上皮癌関連抗原(SCCA)が極めて高濃度に含まれていることが知られている。羊水塞栓症で死亡した妊婦も血清SCCA濃度が高いことがこれまでに報告されており、SCCAは羊水塞栓症の補助診断のための有望なマーカーと考えられている。本研究の目的は、分娩形態に応じた分娩前後の母体血清SCCA濃度の変化を明らかにし、羊水の中のSCCAの起源を調査することである。

464人の患者(経膈分娩群339例、陣痛なしの帝王切開群97例、陣痛ありの帝王切開群28例)を対象として前方視の研究を実施した。患者の入院時、産後2時間後、産後3日目に採取した血清を用いて、SCCA濃度の測定を行った。血清と臨床情報は、患者のインフォームドコンセントと倫理委員会の承認を得て取得した。羊水および新生児尿のSCCA濃度も測定した。胎盤および胎児皮膚におけるSCCAの発現を免疫組織化学染色で評価した。

経膈分娩群では入院時と比較して産後2時間までSCCA濃度の有意な上昇が見られ、産後3日目にはSCCA濃度が分娩前の値まで減少していた。帝王切開群では、入院時と産後2時間後の血清SCCA濃度に差はなかった。陣痛なしの帝王切開群と陣痛ありの帝王切開群ではいずれの時点でもSCCA濃度に差はなかった。免疫組織化学染色では、胎盤および胎児皮膚ではSCCAの発現は認められなかった。出生直後の新生児尿中のSCCA濃度は羊水中と同程度に高く、SCCAは胎児尿に由来する可能性が示唆された。したがって、本研究により①羊水中のSCCAは胎児尿に由来する、②経膈分娩時に羊水が母体循環に入る、の可能性が示唆された。